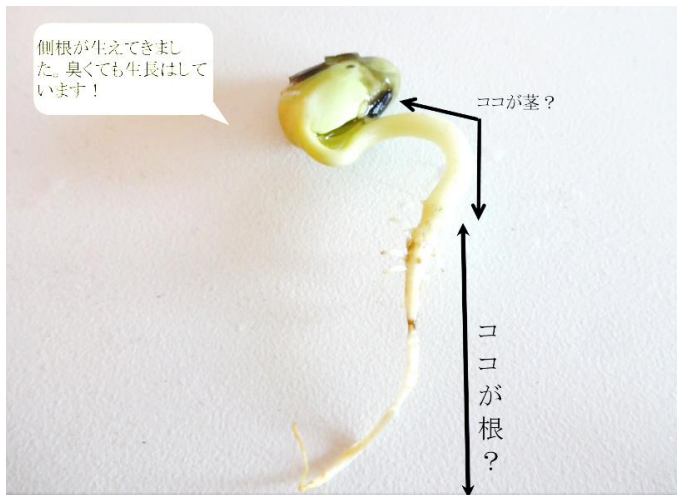


学修支援センター企画 「ふしぎ探検隊」⑤ レポート

7月11日（金）18時～19時30分まで学修支援センターにおいて、「よく飛ぶグライダーをつくろう！」と題し、種子の生存競争や植物が生息域をどのように広げていくかについて学びました。4名の学生が参加してくれました。



<0. もやしの観察日記の報告>

前回、探検隊員の一人が毎日もやしの生育を観察して作成した日記をみんなで確認しました。

実習などで忙しい中、1週間、毎朝晩記録をとったことに脱帽です。

タネによって芽の太さ・生育スピードが違うこと、呼吸熱でタネ自体が温かくなっていることなどを知りました。

<1. 空飛ぶ種>

タネは個体維持と子孫維持のための組織です。では、どのような方法で種族を残しているのでしょうか？

そこで今回の本題です。ボルネオに繁殖するハネフクベ（アルソミトラ）という植物のタネがあります。形がとてもユニーク。進化の過程といえどもどうしてこのような変化をとげられたのか、その実やタネの飛ばし方についても不思議は深まるばかりです。写真や、宇野先生がサンプルとして所蔵している本物のタネも見ました。タネのまわりにはパラフィン紙のように薄い羽がついています。このタネ、実はグライダーの原型なのです。

このあと、DVDでタネを見てからグライダーを作るか、グライダーを作ってからDVDを見るか、学習援助プラン作成の際はどちらがよいか話し合っ、先にグライダー製作をすることにになりました。



<2. グライダー製作>

タネをお手本として簡単な模型を製作します。必要なのは紙とクリップ（とハサミ）のみ。

絶妙なバランスで空中を滑空します。羽の角度によって飛び方に差が出るので微調整しながら、何度も試しました

実際に製作することで仕組みを知ることができました。

<3. BBC「Gliding Seeds」の鑑賞>



実からタネが飛び出す様子は、映画「天空の城ラピュタ」のワンシーン、天空の城ラピュタからロボット兵が飛び出すシーンにそっくりです。

見終わった後、教師として学習援助プランづくりに大切なことを学んで終了しました。

☆次回のふしぎ探検隊は7月18日（金）です。